上の写真が問題のB52機

嘉手納村広報

B52駐留反対特集

戦争につながるB52の駐留

全村民立ちあがろう！

核戦略爆撃機B52を沖縄から撤去させるための運動が全県民的に大きく広がりつつある中で、村議会は二月十五日の午前十時から第二回臨時議会を開き全会一致で抗議決議（別項）を採択し、全村民が反対運動にたちあがることをきめました。

村民一体の反対運動へ

嘉手納村長　奥間敏雄

私たち嘉手納村民は、帰村以来空軍基地から発する色々の被害のため二十余年も苦しい生活をつづけて居ります。その最も大きなものとして大型ゼット輸送機の墜落事故、飛行場整備工事のための砂塵の飛来、日夜航空機から発する爆音の問題、更に航空燃料の流出による井戸汚染の問題等基地公害のために村民は不安な生活をしいられて居ります。爆音の問題も航空燃料による井戸汚染の問題も未だ解決見ない内、今回又B52戦略爆撃機が嘉手納航空基地に駐留して村民に更に一層の不安を与えていることは実に遺憾にたえない次第であります。

B52は水爆積載可能な戦闘爆撃機であるとの由、かかる航空機が嘉手納基地に駐留することは直接戦争につながるものとして容容出来ないので直ちに沖縄から撤収するよう基地司令官に要請致して居ります。

又高等弁務官、行政主席立法院議長に対しても要請をすべく面会の日時を折渉中であります。

なお村議会においても全会一致でB52撤収要請を議決して現地軍司令官、高等弁務官、行政主席立法院議長に要請すると共に各市町村議会に対してもB52撤収要求の議決をして貰うよう議会から要望して居ります。

B52撤収については、関係各方面に要請して行き度いと思いますので村民各位の御協力を御願い致します。

B52の駐留で倍加する危険度

事故でも全島が〝死の島に〟

二月五日の午後、嘉手納飛行場に着陸したB52核戦略爆撃機は「沖縄を戦争にまきこむ」ものとして大きな問題になっています。それはこの飛行機が戦略爆撃機でありしかも毎日のようにベトナム爆撃のために出動している罪深いものだからです。そのうえB52は水爆をつんで地域によっては二十四時間も警戒飛行しているといわれるおそろしいものなのです。

これまでにも水爆を積んだままスペインで墜落し、ことしにはいってからグリーンランド沖で落ちています。そのときは核爆発は起こりませんでしたが、放射能がもれて大きな問題になっています。沖縄がB52の基地になりますとそれだけ危険も大きくなりますし、万一この飛行機が墜落または事故をおこし、突然起爆装置が動きだしますと沖縄は一瞬にして〝死の島〟にかわることは明らかです。

又沖縄が基地になりますと別の国から攻撃されるおそれもありますし、そんなことはないという保証は誰にも出来ません。

そのため立法院でも二月十日に全会一致で「B52基地化に反対し、同機の即時撤収といっさいの戦争行為の即時取りやめを要求する決議」を採択しました。

沖縄の民主団体である復帰協や原水協でもすでに反対運動に立ちあがっております。一方私たちの村でも学校の先生方や役所の職員などでは胸にB52の駐機に反対するリボンをつけて抗議しております。このようにしてB52の問題は今や村内を始め全県民の恐怖と不安におとしいれています。

このような中で奥間村長村と山議長は二月十四日の午前、空軍基地に行き直接司令官とあって一日も早く撤去するよう文書で要請しました。しかしこの日の会見でマレック司令官は「B52の問題についてはコメントできない」として一蹴しております。

すでに十五日には、さっそく臨時議会を開いて全会一致で撤去要求決議を行ない全議員で基地司令官や弁務官に強く要請すると共にアメリカのジョンソン大統領や佐藤首相にも決議文を送りました。議会でのとりきめによりまして村では「村民の生命と財産を守ろう」と立看板やポスター、横幕などをつくって村ぐるみの反対運動にたちあがっております。全村民で「戦争はいやだ」「B52すぐかえれ！」という運動をおこし、B52を一日も早く撤去させ平和で静かな村をつくりましょう。

B52即時撤去要求を決議

村議会が全会一致で

B52の性能

B52の原型は直列式の操縦席配置であったが、最初の生産型B52Aでは並列式にあらためられ、これが以後の基本となった。A型は五四年八月に完成し、わずか三機しか作られなかった。このうち一機はのちにNB52Aとして改修された。

B型からF型まで純爆撃機としてのB52は四四四機生産されたがその後B52もミサイル母機として生まれかわることになり、まずG型が一九六一年一月までに一八三機生産されたが、性能が不十分なため、さらに高性能のH型が六二年六月までに一九三機生産された。

しかし、このH型に搭載される予定であったIRBM級弾道弾スカイボルトが開発中止となったためH型もG型同様にハウンド・ドッグASMを装備することを余儀なくされた。

（データ）

全幅五六・四m、全長四八m、全高十二・四m翼面積三七二m²、総重量二三万三千kg、最大速度マッハ〇・九五、実用上昇限度一万八千m、航続距離一四万六〇マイル、戦闘行動半径四千マイル、乗員六人

撤去要求決議文

米国の南ベトナム戦争の激化とプエブロ事件の惹起による米北鮮間の緊迫に伴ってアメリカの核攻撃力の主力といわれているB52核戦略爆撃が二月五日嘉手納飛行場に移駐、同基地を拠点として連日作戦行動をしていることは嘉手納村民に戦争の恐怖と不安を与えている。

第二次世界大戦で悲惨な戦禍を身をもって体験している村民にとって沖縄がB52核戦略爆撃機の出撃基地として使用されることは断じて許すことはできない。よって本村議会は村民の生命と財産を守りその安寧を図るためB52核戦略爆撃機の駐留に抗議し同機の即時撤去を強く要求する。

右決議する

一九六八年二月十五日

嘉手納村議会

あて

米国大統領
国防長官
上下両院議長
高等弁務官
内閣総理大臣
衆参両院議長
三一三空軍司令官
基地司令官
立法院議長
行政主席

村民の声

村山議長

嘉手納村は、第二次世界大戦の終焉地である沖縄においても特に米軍の上陸地点として最大の戦禍を蒙っております。そして曽って日本の一地方県であった沖縄県は終戦以来今日まで祖国日本から分断されて米国の施政権下にあって生活を営んでおります。御承知のとおり私達の嘉手納村では総面積の約八十七%が軍用地であり、その大部分が嘉手納飛行場として米軍に使用されております。私達は総面積の約十二%という農耕地の少ない狭少な地域内で軍賃貸料、軍雇傭員の給料、軍関係の職業その他の所得等、いわゆる基地経済に依存した生活を余儀なくされている現状であります。然し乍らその反面において私達の日常生活に及ぼす基地からの被害や戦争への不安も甚大であります。

会において村内で六二年十二月に発生したB50型燃料輸送機の墜落による人命の犠牲や財産の損失、また、六六年五月に再度発生した米軍機の墜落による人命の犠牲や損失それから引続き同年六月の滑走路拡張工事のためアスファルトプラントからの砂塵による被害があり、最近では燃える井戸や燃える排水溝の問題があって基地からの被害を蒙り村民の生活に不安を与えており、且つ、連日連夜発生している物凄い爆音は私達の睡眠を邪魔し、日常生活においても有形、無形の被害は村民の精神的な生活面にも戦争への不安をかりたてているような現状であります。このような不安な精神状態に置かれている村民にとってベトナム戦が激化し、プエブロ事件が発生して緊迫化している最中に核攻撃の主力と言われているB52戦略爆撃機が嘉手納飛行場に移駐し連日離着陸している実状は地元村民の戦争への不安に拍車をかけるものであります。B52が原水爆を積載して目標を核攻撃できる性能をもっている長距離爆撃機である事は衆知の事実であります。

ベトナム戦等の激化に伴い私達は万一の場合を考えて原水爆による長距離爆撃や域いは不慮の事故によって起る惨澹たる情景を思い浮かべるとき身の毛もよだつのであります。従来のB52の駐留の場合は台風避難という名目で飛来して参りましたが今回の場合は去った二月五日以来無気味な黒い翼を横たえて十五、六機程度が駐留し離着陸を行い連日作戦行動をして常駐の構えを見せておりますが戦争の恐ろしさを身をもって体験して知っている私達はB52の駐留に反対し直ちに同機の撤去をお願いしたいものであります。

古謝青年会長

B52という悪魔の飛来に対して抗議する私たちに無関心な人がいることをみるにつけ情けなく思う。ときにはこの飛行機に対する怒りと同じようなものを感じることさえある。私たち青年会としても今後B52だけでなく戦争を拡大しようとする米国の意図を見ぬき、若い仲間皆が団結して先頭にたって抗議行動をおこす決意である。それは二度と戦争にまきこまれることのない平和な社会を築こうという純粋な気持からのものであり全県民が大同団結すべきだと確信する。

真壁校長

私たちの目標は、村内三千五百名の児童生徒の生命を守ることにある。これまでにも石川市宮森小学校にジェット機が墜落し多くの学童の尊い生命を失なった。村内にも二度も米軍機が墜落し犠牲者をだした事実がある。

B52が常駐するとなると危険もますし戦争の不安も倍加する。そのような危険と不安の中ではおちついて子どもたちを教育することは出来ないし、将来に平和が保証されない限り又教育も意味がないと思う。B52の問題は一人嘉手納村民だけの問題ではなく全県民の問題であり、全県的な運動にもりあげて撤去させなければならないと考えています。

池原農協長

われわれ嘉手納村民は、過去二十年余絶え間ない爆音によって生活をかきみだされているばかりでなく米軍油送機やジェット機の墜落によって尊い人命や財産を失った。基地からの被害をかぞえあげれば「燃える井戸」などきりがなくさんたんたる苦難の道を強要されている。その上今やプエブロ事件や南ベトナムの激戦で嘉手納空軍基地はB52爆撃機や大型輸送機の動きも激しくパイロットも交代で貨物を運ぶという緊迫が続いているという。しかも嘉手納基地では、アラートと呼ばれる緊急避難訓練が一日数回も行なわれていると伝えられており、考えて見るだけでもぞっとする。

B52の駐留で全村民の恐怖と不安は最高度に達した。事故が起ってからではおそい。一日も早く撤去させなければならない。一万五千村民だけの問題としてではなく全県民的な問題としてこの運動を高め生命と財産を守るために全力を結集してB52爆撃機を撤去させるように努めましょう。

B52の撤去要求決議は、本村が二月十五日に開かれた臨時議会で決議してから全琉の各市町村でも次々決議され、B52の駐留に対する県民の不安と恐怖はますます高まっております。

二月二十九日現在撤去要求決議を行なった市町村は、北谷、浦添、中城、糸満、大宜味、石川、宜野湾、北中城、読谷などとなっています。又全琉の市町村会や議長会、教育長協会でもすでに決議されており、今やB52の撤去要求は全県民的な運動に広がっております。